

[分 類] 普及技術

[成果名] もも、ネクタリンのモモせん孔細菌病防除にチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）が有効である。

[要 約] もも、ネクタリンのモモせん孔細菌病防除にチウラムフロアブルの 500 倍液を散布する。ももとネクタリンでは登録内容（使用時期）が異なるので注意する。

[担 当] 果樹試験場 病害虫土壌肥料部

[部 会] 病虫部会

1 背景・ねらい

モモせん孔細菌病に対するチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）の防除効果および薬害発生の有無を検討する。

2 成果の内容・特徴

(1) もも、ネクタリンのモモせん孔細菌病防除にチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）の 500 倍液を散布する。

農薬登録内容

チウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）

[一般名および含量] チウラム 40.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C 類

[対象作物に対する登録状況（平成 20 年 9 月 26 日 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	散布液量	使用時期	チウラムを含む 農薬の総使用回数	使用方法
もも	黒星病	500 倍	200～700 ℓ/10a	収穫 7 日 前まで	5 回以内	散布
	縮葉病 せん孔細菌病					
ネクタリン	灰星病	500 倍	200～700 ℓ/10a	収穫 30 日 前まで	5 回以内	散布
	黒星病					
	縮葉病 せん孔細菌病					
	灰星病					

本試験は純粋に殺菌剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容決定以前に実施したため、試験における実際の散布回数は適用登録の回数を超えた。

3 利用上の留意点

- (1) 防除効果はストレプトマイシン剤には及ばないが、体系防除の中の一剤として使用する。
- (2) 本病防除においては、耕種的対策を含めた総合的な対策を実施することが不可欠である。
- (3) ももとネクタリンでは登録内容（使用時期）が異なるので、注意する。
- (4) チウラムフロアブルにはチオノックフロアブル、トレノックスフロアブルがある。
- (5) 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ってから使用する。
- (6) 蚕毒が強いので注意する。
- (7) 魚毒性が強いので、河川、湖沼、養魚池等に飛散流入しないようにする。
- (8) 石灰硫黄合剤、ボルドー液など強アルカリ性の薬剤との混用は避ける。

4 対象範囲 県下全域

5 具体的データ

- (1) 平成 17、19 年の各試験とも対照のアグレプト水和剤と比較し効果は劣ったが、無散布区と比較し防除効果が認められた。
- (2) いずれの試験においても葉、果実、新梢への薬害発生は認められなかった。

表 1 モモせん孔細菌病に対するチウラムフロアブルの防除効果 (平成 17 年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	7月8日			8月30日			薬害
		調査 葉数	病葉率 (%)	防除価	調査 果数	病果率 (%)	防除価	
チウラムフロアブル (チオノックフロアブル)	500	240.0	19.0	19.0	117.0	19.2	37.3	なし
アグレプト水和剤	1000	249.5	16.6	29.1	102.0	5.4	82.3	なし
無散布		247.0	23.5		101.5	30.6		

防除価 = 100 - (散布区の発病率 / 無散布区の発病率) × 100

試験場所: 果樹試験場場内ほ場 供試品種: 川中島白桃、12 年生

試験規模: 1 区 1 樹、2 反復

処理方法: 平成 17 年 5 月 6 日、19 日、6 月 1 日、16 日、6 月 30 日、7 月 13 日の合計 6 回動力噴霧機で約 200 / 樹の割合で散布した。各回とも全ての薬剤に展着剤 (アグラール 10,000 倍) を加用した。

調査方法: 平成 17 年 7 月 8 日に 1 樹 15 新梢の全葉について発病の有無を調査し、発病率を算出した。8 月 30 日には全果実を収穫し、発病の有無を調査し発病率を算出した。薬害は散布時および調査時に肉眼観察によった。

表 2 モモせん孔細菌病に対するチウラムフロアブルの防除効果 (平成 19 年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	6月7日			6月28日			薬害
		調査 葉数	病葉率 (%)	防除価	調査 果数	病果率 (%)	防除価	
チウラムフロアブル (チオノックフロアブル)	500	227.0	46.4	4.5	56.7	28.0	50.7	なし
アグレプト水和剤	1000	218.7	33.1	31.9	72.7	7.5	86.8	なし
無散布		211.7	48.6		56.7	56.8		

防除価は表 1 に同じ

試験場所: 果樹試験場内ほ場 品種: 川中島白桃 9 年生

試験規模: 1 区 1 樹、3 反復

処理方法: 平成 19 年 5 月 5 日、16 日、29 日、6 月 12 日の 4 回動力噴霧器を用いて 150 / 樹の割合で散布した。供試薬剤には展着剤 (アグラール) を 10,000 倍で加用した。

調査方法: 平成 19 年 6 月 7 日に 1 樹 20 新梢の全葉について、また 6 月 28 日に目どおりの全果実について発病の有無を調査し、発病率、発病率を算出した。薬害は散布時および調査時に肉眼観察によった。

その他: 降雨にあわせ平成 19 年 5 月 6 日および 10 日に、動力噴霧機を用いて、約 10⁸CFU/ml に調整した細菌懸濁液を全樹へ散布した。

6 特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の病害虫防除農薬の効果試験、2005、2007 年 (平成 15、19 年)、民間受託